



かんごふさん みやくをとる

はっけよい すもうとる

昨日の国語の時間、特に説明はせずに上の詩をホワイトボードに書き始めました。

子どもたちは、自然と鉛筆を持って写し始めます。

「写しましょう」の声をかけずとも、大勢の子たちが移し始めるのは、すでにこの学習が習慣化しているからです。

全員が移し始めたのを確認してから、二行目を書きました。

はっけよい すもうとる

こんにちは ぼうしとる

二行目が書かれたことで、一行目だけでは分からなかった「規則性」が見えてきます。

そのまま、三行目を途中まで書き足しました。

はっけよい すもうとる

こんにちは ぼうしとる

てんどんの

ここまで書いてから

「続きはどうなると思いますか？」

と問いました。

最初に出てきたのは、「ふたをとる」でした。

続いて出てきた意見は、「しっぽとる」。

えびの天ぷらをイメージしたのでしょうか。

いずれも、語尾が「とる」で終わることや、音が「五音」になることなど、

何も説明をしていないのに体得しています。

ひとしきり意見が出尽くしてから、答えを書きました。

正解は、「でまえとる」です。

「ああ～それかあ」との声が至る所から聞こえてきます。

詩は、まだまだ続きます。

はっけよい すもうとる
こんにちは ぼうしとる
てんどんの でまえとる
セーターの

ここあたりから一気に意見が多彩になってきました。

「毛玉とる」

「ボタンとる」

「値札とる」

「汚れとる」

「シミをとる」

などなど。

正解は、「ごみをとる」です。

ここからは、同じように「前半から後半を予想する」という流れで進めていきました。

はっけよい すもうとる
こんにちは ぼうしとる
てんどんの でまえとる
セーターの ごみをとる
のらねこの

「きげんとる」(なるほど)

「毛玉とる」(今度こそという感じ)

「エサをとる」(ひどい!)

「写真とる」(正解!)

はっけよい すもうとる
こんにちは ぼうしとる
てんどんの でまえとる
セーターの ごみをとる
のらねこの しゃしんとる

かんごふさん

- 「メスをとる」(お見事！)
- 「心臓取る」(エッ)
- 「内臓とる」(ウーン)
- 「レントゲンとる」(ありえる！)
- 「大便とる」(検便ね)
- 「血液とる」(採血ね)
- 「脈をとる」(正解！)

と、このような形で大盛り上がりで授業は進んでいきました。
そして、特に盛り上がったのが、次の局面です。

はっけよい すもうとる
こんにちは ぼうしとる
てんどんの でまえとる
セーターの ごみをとる
のらねこの しゃしんとる
かんごふさん みやくをとる
おはなみの ばしょをとる
コーラスの しきをとる
たんじょうび

テーマは「誕生日」。
さて、何を「とる」のか。



次のページに行く前にぜひ予想してみてください。

出てきた答えを紹介します。

「予約とる」(お店かな)

「機嫌とる」(誰のだろう)

「出前とる」(ありえる)

「電気とる」(電気を消す意味らしいです)

「ケーキとる」(バースデーケーキね)

子どもたちは、色んなアイデアを出しながら、楽しく「とる」の活用法を学んでいきました。

おそらく、日本語圏ではない外国人の人が聞いたら、パニックになる授業です。(笑)(正解は「としをとる」)

たった、一言の「とる」でもいろんな使い方があるんですね。

ちなみに、全文はこちらです。

とる	川崎	はつけよい	こんには	てんどの	セーターの	のらねこの	かのごふさん	おはなみの	コーラスの	たんじょうび	リリリリ
すもうとる	ぼうしとる	でまえとる	ごみをとる	しゃしんとる	みやくをとる	ばしよをとる	しきをとる	としをとる	じゅわきとる		

しかし、教科書に載っていたのは、前半の「のらねこ」の所まで。

後半五行はなぜか割愛されていました。

以前の教科書、私が小さいころには載っていたのに。

つまり、削除されたのです。

その歴史を知っている私はあえて、次のことを聞いてみました。

なぜ、後半は教科書に載っていないんでしょう？

子どもたちは、首をかしげました。

これは、教科書だけを読んでいるだけでは絶対にわからない問題です。
 なぜなら、割愛されている「場所をとる」の表現などは、しっかりと教科書
 の別の部分に載っているからです。

言葉

いろいろな意味をもつ言葉

はっけよい すもうとる
 こんにちは ぼうしとる
 てんどんの でまえとる
 セーターの ごみをとる
 のらねこの しゃしんとる

右は、「とる」(川崎洋かわさきひろし)という詩の
 一部分です。

この詩では、「とる」という言葉がい
 ろいろな意味で使われています。動作を
 したり、他の言葉に言いかえたりして、
 それぞれの意味を考えてみましょう。

10

言葉には、かなで書くと同じでも、い
 ろいろな意味をもつものがあります。こ
 れらの言葉の意味は、多くの場合、文の
 中で使われるときの、他の言葉との関係
 からはつきりしてきます。

1 次の に入る言葉を考えましょう。

とる	〈例〉	出欠を	とる
場所を	とる	満点を	とる
とる	とる	栄養を	とる

5

川崎洋さんの作品への敬意という点からも、基本的には作品は全体を乗せるのが礼儀であるはずです。

では、なぜ後半は割愛されたのか。

「あっ！」と閃いた後藤さんが、次の意見を発表しました。

「看護婦さんという言い方が差別に当たるからだと思います。」

この意見には、教室からどよめきが起きました。

まず、差別なのかどうなのかという点はさておき、「看護婦」という言い方はすでに一般的には使われなくなっています。

もちろん、川崎さんがこの作品を発表した時代は「看護婦」が普通でした。なぜなら、法律がそうになっていたからです。

大正時代～昭和前半頃まで、看護の仕事は女性の方しかできませんでした。しかし、1968年の法律改正により男性でも看護の仕事ができるようになります。

しかし、昔の名残から昭和の時代もしばらく「看護婦」との呼び名は当たり前のように社会に残り続けました。

男性で看護についている方は「看護師」として呼称を言い分けましたが、2002年の法律改正によって男女ともに「看護師」という呼称で統一しようということになったのです。

女性の社会進出が一つの大きな課題でありテーマともなっている現代において、このワードを使った詩を全文掲載することには、教科書会社としてもきっと配慮する部分があったのでしょうか。

だからこそ、「割愛して掲載」という方法をとったのだと思います。

もっといえば、全文掲載は難しいけれど、それでも時代を超えてなお「とる」という言葉の面白さ、そして「同音異義語」への知の扉を開くための教材として、川崎さんの作品が評価されている証でもあると思います。

という内容を伝えていると、子どもたちは更に前のめりになって話に聞き入るようになるのでした。

これは、社会的なそうした歴史や動きをしらなければできない語りですし、多くの先生はきっとその話題にはふれないでしょうし、ふれられないと思います。

でも、こうした部分にこそ、学びの面白さが詰まっています。

ちなみに、私の妹は助産師です。

かつては「産婆」とも呼ばれた時代もありましたが、先ほどの法律改正によってこれも「助産師」に統一されました。

助産師は、女性しかその仕事に就くことができません。

しかし、海外では男性がその仕事についているところもあります。

同じようなところでいえば、以前は保育士さんが保母さんや保父さんと呼ばれていた時代もありました。

こうやって、仕事の呼び方一つでもいろいろと見えてくることがあるし、考えられることがありますね。

色んなアンテナを立てて世の中の動きを見てみるようにすると、さらに面白い学びの扉が開けていきますよ。

ちなみに、私が小さいころには下の「全文」が載っていた川崎洋の作品ですが、実はこれも全文ではないのです。

すでに、一行だけ削除された部分があるんですね。

さて、それはいったい何でしょう。

リ リ リ リ	た ん じ ょう び	コ ー ラ ス の	お は な み の	か ん ご ふ さ ん	の ら ね こ の	セ ー タ ー の	て ん ど ん の	こ ん に ち は	は つ け よ い	と る 川 崎 洋
じ ゆ わ き と る	と し を と る	し き を と る	ば し よ を と る	み や く を と る	し や し ん と る	ご み を と る	で ま え と る	ぼ う し と る	す も う と る	

せっかくなので、今回は紹介します。

それは、「はんにんの しもんとる」です。

いったいなぜ、削除されたのでしょうか。

ぜひいろいろと、予想してみてください。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

